

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第329回

草間彌生

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和4年11月11日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

いつの日も私はひたすら 一生懸命新しい作品を 作り続けているだけ。

草間 彌生は、日本の芸術家。京都市立美術工芸学校絵画科卒業。長野県松本市生まれ。幼い頃から悩まされていた幻覚や幻聴から逃れるために、それらの幻覚・幻聴を絵にし始めた。1957年に渡米すると絵画や立体作品の制作だけではなくハプニングと称される過激なパフォーマンスを実行し、1960年代には「前衛の女王」の異名をとった。

Column

世の中には様々な文化や芸術があり、その全てにおいて“アイデア”が必要だと思います。特に芸術の分野では『それが全て』というほど必要不可欠なものだと思います。今回の言葉のように“作り続ける”ことができるということは次々にアイデアが浮かぶということですから、やはり第一線で活躍する人が持つその才能に改めて驚きです。その道において素晴らしい功績を残した人のコメントに、今回のような『私は続けているだけです』という表現の言葉がありますが、草間氏レベルの芸術活動に没頭し続けるためには自分だけの力ではどうしても限界があり、まずは自分以外の人の協力や資金を集めるなどの“環境の確保と維持”が大前提となります。それらの課題を全てクリアするためには、前回紹介した武田双雲氏の言葉のような『勘違いの自信』だけではなく、明確な『成果』が必要です。

私自身もこのコラムでみなさんに積極的にチャレンジしていくことを訴えています。最近はずっかり“新たなチャレンジ”から遠ざかっています。現状に満足しているからという気持ちも間違いなく持っていますが、満足できていない部分もゼロではありません。しかし、『言い出せばキリがない…』と自分のわがまままだと言い聞かせて諦めることや『時間がない』などと理由をつけてはチャレンジする前からチャレンジできない理由を先に探してしまうようになっています。そういう思考に陥る理由は成果を出せる自信がないことなどの『自分の弱さ』です。結局は『自分に負けているんだな…』と自覚しながら言い訳をしている今の自分に『本当にこれでいいのか?』と問いたくなる時もありますが、草間氏はこんな気持ちになりながら何度も自分自身を奮い立たせて立ち向かっていったからこそ今があるのでしょう。私たちも改めて自分の可能性を信じ、目先のことでなく将来を見据えた上で様々なチャレンジをしていきたいものですね！